

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 5 年 10 月 26 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 13名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	9名	

※事業所記入

事業所番号	387010449
事業所名	グループホーム であい
(ユニット名)	梅の宿
記入者(管理者)	
氏名	田中 雅子
自己評価作成日	令和 5 年 10 月 5 日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】 思いやりとぬくもりがあり笑いが絶えない暮らしをお手伝いします。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ・「グループホームであいより」を発行し、利用者様の活動の様子や事業所の理念、運営など情報を発信する。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 市内南西部の住宅街の中にある事業所は、重信川が近くに流れるほか、近隣に田畑が広がるなど、ゆったりとした閑静な環境の中で、利用者は穏やかに生活を送ることができる。事業所に入る建物は複合施設で、介護付き有料老人ホームやケアハウス、デイサービスが併設され、必要に応じて連携が図ることができるなど、地域のケア拠点として貢献をしている。また、管理者のリーダーシップのもと、職員同士の良好な関係性が築かれ、利用者の思いに寄り添いながら、事業所の理念である「思いやりとぬくもりがあり笑いが絶えない暮らしをお手伝いします」という生活の実現を目指した支援が行われている。さらに、利用者一人ひとりの残存能力を活かしながら、リハビリ体操を取り入れるなどの支援が行われている。事業所内には広々とした中庭が設置され、外出制限が設けられている中でも、中庭に出ておやつを食べたり、外気浴をしたり、夏祭りの行事を開催するなど、利用者を楽しみのある生活を送れるように工夫をしている。加えて、有給休暇や希望休の取得を促すとともに、職員の出動日数に応じて、法人独自のポイントを付与し、貯まったポイントを商品券などに交換できるシステムを導入し、福利厚生充実の充実にも努めるなど、働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。</p>
--	--	--

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いやり暮らしの希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らしの希望、意向の把握に努めている。	○	日常会話の中で本人の思いを大切に共有している。	○	/	○	日々の会話の中で、管理者等は利用者から思いや希望を聞き、記録に残して職員間で共有をしている。早期に共有すべき情報は、連絡ノートに記載して閲覧するほか、朝夕の申し送りを活用して、伝達している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	本人の表情やしぐさの観察や家族の要望を伺い検討している。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	面会にこられた際などに本人の思いについて話し合っている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	基本情報やアセスメント表に記録し職員間で情報共有している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	思い込みや決めつけにならないよう、職員間で話し合いより良い方向に向かうよう努めている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入居前面談において、本人や家族などにこれまでの生活歴や、こだわり、趣味など情報収集している。	/	/	○	入居時に、管理者等は利用者や家族と面談を行い、生活歴や馴染みの暮らし方などの聞き取りをしている。医療機関からの紹介で、入居に繋がる場合には、担当看護師等から情報を聞くとともに、サマリーなどの情報を提供してもらっている。また、他の施設から転居する場合には、担当の介護支援専門員から情報を得ている。把握した情報は、アセスメントシートに記載し、職員間で共有をしている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	日々のケアや、声かけの反応を元に現状の把握に努めている。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	◎	日々の関わりを記録し普段と違う様子が見られたらこまかく記録し職員間で情報共有している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	利用者個々の担当職員を中心に、本人主体で意見を出し検討している。	/	/	○	入居前に、把握した利用者の思いや意向に沿った支援に努めるとともに、入居後も、利用者毎の担当職員が、新たな情報を聞き、随時職員間で共有しながら話し合い、利用者がより良く暮らすための支援を検討し、実践をしている。
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	○	よりよく暮らすためのケアのあり方について話し合い把握に努めている。	/	/	/	
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人や家族からの意向や意見を踏まえて介護計画を作成している。	/	/	/	事前に、担当職員が利用者や家族から意見を聞くとともに、医師などの関係者から指示やアドバイスをもらい、アセスメント情報や把握した情報をもとに担当者会議の中で話し合い、担当職員と計画作成担当者を中心に介護計画を作成している。また、職員同士の良好な関係性が築かれ、業務中に利用者のケアなどをこまめな話し合いをすることができ、食事介助の工夫をするなど、計画や支援内容に反映することができている。中には、電話連絡時に家族から、利用者の好きなトマトジュースの情報を把握し、定期的に飲み物を提供するようになった事例もある。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人や家族からの意向や意見を踏まえて、課題や日々のケアなど職員からアイデアを出してもらっている。	/	○	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	重度になってもその人らしく可能なかぎり慣れ親しんだ暮らしが出来るよう話し合っている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	利用者の状態や意向によっては、家族の協力や他の事業所の協力をお願いしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	日々の記録の際に介護計画の内容を確認できるようにしている。				○ 介護計画は、ケース記録と一緒に個別のファイルに綴じられ、確認しやすい場所に置くとともに、職員は記録時に計画を確認できるようになっている。ケース記録には、介護計画に沿った支援の実施の有無を記録に残し、介護計画の更新時等に、評価を行いやすくなっている。また、日々の出来事のみを記録に残すことなく、普段と変化した利用者の様子のほか、発した言葉の内容などを詳細に記載するようにしている。さらに、介護計画の内容に変更があった場合には、職員に回覧し、情報を共有している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	介護計画に沿ってケアを実施し出来なかった際はなぜ出来なかったか記録し、職員間で共有している。				
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	期間に応じて見直しを行っている。				○ 介護計画は、3か月に1回を基本として、見直しをしている。新たに入居した利用者場合には暫定計画を作成し、1か月で計画の見直しをしている。状態の変化が見られない利用者も含めて、月1回担当職員がモニタリングを行い、利用者の現状を確認している。また、状態の変化が見られた場合には、家族に報告するとともに、職員間で話し合い、現状に即した介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	毎月モニタリングを行い、介護計画の実施の状況、介護支援専門員のコメント、看護師からも医療面の報告をしている。				
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	新規入居者は1ヶ月程度、他は3ヶ月に1回見直しを行っているが、状況に変化が生じた場合も見直しを行っている。				
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	ワーカー会を月に1回開催し気づいたことや介助において試したい案があるかなど話し合っている。緊急を要する場合は連絡ノートで共有している。				○ 全ての職員を対象に、月1回ワーカー会を開催し、利用者のより良いケア方法や課題などの話し合いをしている。怪我や骨折などの緊急時には、医師や看護師の指示を受けて対応している。緊急案件のある場合には、その日の出勤職員で話し合うとともに、話し合われた情報は連絡ノートを活用し、情報を共有している。また、会議に参加できなかった職員には、会議録を確認してもらい、重要事項は連絡ノートに記載するとともに、口頭で伝達している。さらに、法人内には、感染症対策委員会や身体拘束適正化検討委員会などの各種委員会が設置され、話し合われた内容を事業所内で共有し、利用者の支援や運営に反映している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	勤務の都合で参加できない職員には事前に聞き取りを行い、意見を出しやすい雰囲気になっている。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	○	職員は出来るだけ参加し報告書にまとめ回覧し共有に努めている。				
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	毎日申し送りを行い重要事項は連絡ノートにも記入し情報共有に努めている。				○ 日々、重要事項を記載した連絡ノートなどを活用して、朝夕の申し送りを実施している。また、業務中にも職員同士のこまやかなコミュニケーションが図られ、情報共有をしている。さらに、出勤時等に連絡ノートを確認し、確認後に職員は押印を行い、伝達漏れがないようにしている。
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	利用者個々に合わせたいことを聞き趣味やレクリエーションなどを実施している。				○ 毎月、利用者はカレンダーの色を塗り、居室に飾っており、どのカレンダーの図柄に色を付けるかを、利用者自身に選んでもらっている。牛乳やジュース、コーヒーなどの飲み物も、利用者自身に選んでもらうことができる。また、洗濯物たたみや入浴の有無など、生活の様々な場面で職員は声をかけ、利用者が自己決定ができるよう支援している。さらに、利用者から生き生きとした言動を引き出せるように、以前の職業の話題などを取り入れ、薬剤師をしていた利用者や服薬のことを話したり、美容師をしていた利用者には、シャンプーの仕方を聞いたりするなど、会話が弾むこともある。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくらせている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	更衣時の衣類の選択や、塗り絵や脳トレなど本人がしたいことを選ぶことができるように努めている。				
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	利用者一人ひとりのペースに合わせて、出来る限り希望に添えるよう努めている。				
		d	利用者の生き生きとした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	目を合わせて挨拶を交わし、積極的に声をかけ利用者から言葉を引き出せるようにしている。				
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らしができるよう支援している。	○	本人の表情や反応を確認しながら、出来る限り本人の意向に沿った暮らしができるよう支援している。				
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であかさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、自立たずさりげない言葉かけや対応等)	○	不適切ケアチェックシートで自己評価を行いケアの振り返りを行っている。トイレ誘導時は特に配慮し本人の耳元で声かけを行っている。	◎	○	◎	○ 3か月に1回、不適切ケアチェックシートを職員に記載してもらい、支援を振り返る機会を設けている。法人の産業医から、不適切なケアに対する助言をもらうほか、人権や尊厳などの勉強会を開催し、職員の理解促進に努めている。また、利用者と呼ぶ際に、名字にさん付けをして呼んでいるが、利用者から希望が出された場合には、家族に確認した上で、下の名前にさん付けをして呼ぶこともある。さらに、耳の聞こえにくい利用者には、目線を合わせて耳元でゆっくりと声をかけをするようにしている。加えて、居室を利用者専用の場所であることを職員は理解し、居室に入室する際に、ノックをしてから返事を待ち、了承を得てから入室するとともに、退室時にも「ありがとうございます。また、来ますね」などと声をかけてから退室をしている。居室の不在時にも、事前に職員は利用者用に物件を伝え、了承を得た上で入室をしている。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	不安や羞恥心への配慮に十分注意しながら介助に努めている。				
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室は利用者の家であることを常に理解できている入室中はノックをし、その他入室することがある時は本人に確認してから入室している。				
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	勉強会や個人情報漏洩チェックシートにより意識付けができています。書類等保管に関しても施設するように徹底している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	利用者の状況を確認しながら、家事や掃除のお手伝いをお願いし役割を担ってもらっている。	/	/	/	職員は、利用者同士の性格や関係性などを把握し、配席などの考慮をしている。大きな声を出すなど、トラブルが発生しそうな場合には、早期に職員が間に入り、話を聞くなどの対応をしている。また、話し好きな利用者が、他の利用者に声をかけて会話を楽しんだり、世話好きな利用者が、下膳を手伝ったりするなど、利用者同士の助け合いや支え合う場面も見られる。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	支え合って生活を営んでいくことの大切さを理解している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	利用者同士の関係性を把握しリビングのお席など配慮している。	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルに発展する前に仲裁に入り、お話をゆっくり聴くようにしている。	/	/	/	
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	面談時や入居後本人や家族との聞き取りで生活歴の把握に努めている。	/	/	/	
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていったりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	コロナの影響もあり数は少ないが、家族等から希望があればできるだけ希望に沿うようにしている。孫娘の婚礼の写真撮影があった時外出された方もいた。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	戸外への散歩や中庭に出て外気に触れるようにしている。	×	△	△	コロナ禍やインフルエンザなどの感染対策が続き、施設外へ出かける支援に制限を設けており、利用者の外出できる機会は減少をしている。日頃から、中庭でおやつを食べたり、外気浴をしたりするなど、少しでも利用者が気分転換を図れるよう支援している。また、事業所便りから、利用者が複合施設の敷地内にある畑でトマトを収穫したり、散歩をしたりする様子の写真を確認することができた。利用者家族等アンケート結果から、日常的な外出支援への取り組みに十分な理解を得られていないことが窺えるため、今後は、感染状況を確認しながら、徐々にドライブや事業所周辺の散歩などの外出支援を再開したり、お便りや手紙等で家族に外出支援の状況を報告したりするなど、少しずつ理解を得られるような取り組みが行われることを期待したい。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	家族支援により受診等の外出されている。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	勉強会への参加やワーカー会等で話し合いを行い理解し、ケアに活かしている。	/	/	/	事業所として、利用者一人ひとりのできることやできないことを把握し、自分で靴下を履いてもらったり、職員がスポンジに洗剤を付けて、利用者に渡して食器洗いをもらったりすることができている。また、手や口を出しすぎない待つ介護に努め、着替えなどの際に、できることは自分でしてもらい、職員はできない部分のフォローをしている。さらに、月1回のワーカー会の中で、利用者の残存機能を踏まえた支援内容などを話し合い、より良い支援に努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	食事前には嚥下体操やリハビリ体操を行っている。また、日常生活の中で本人の残存機能が維持できるように声かけを行っている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	利用者一人ひとりのアセスメントを共有し、できることはゆっくり見守りし、声かけにより出来るようなことが引き出せるように支援している。	◎	/	◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	生活歴から楽しみや役割を持っていただけるよう支援している。	/	/	/	テーブル拭きや食器洗い、洗濯物たたみなど、職員は声をかけ、一人ひとりの利用者の出番や役割づくりをしている。また、歌の上手な利用者には、歌を披露してもらおうなどの出番を担ってもらったこともある。さらに、今年の秋祭りには、神輿に訪訪してもらい、利用者の喜ぶ様子を見ることができた。加えて、裁縫が得意な利用者には雑巾を縫ってもらったり、生け花の好きな利用者には教えてもらったりするなど、利用者の好きなことや得意なことを活かした関わりや支援にも努めている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	地域の神輿や獅子舞などを毎回楽しみにされている。	○	○	○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つとらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	その人らしい身だしなみや好みを把握している。				起床時に、職員は声をかけて、着替えや整容などの身だしなみを整えてもらえるよう支援をしている。男性利用者には、電気シェイバーを渡して自分で髭剃りをしてもらい、職員は剃り残しなどのフォローをしている。また、食事などの際に、衣服の汚れた場合には、利用者のプライドを大切に、さりげない声かけを行い、居室に移動して着替えてもらうなどの対応をしている。さらに、重度の利用者には、髪をくすでいたり、好みの服に着替えてもらったりするなど、本人らしさを保てるような支援にも努めている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	利用者一人ひとりの個性を大切に服の色の好みなどを把握し希望に応じて更衣、散髪の支援をしている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	季節に応じた身支度が出来るようアドバイスをしている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	好みの色や、季節感のあるものをそろえ、楽しめるよう支援している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	食べこぼしや衣類の汚れなどには注意を払い、更衣するときはさりげなく声かけをし居室に戻っている。	◎	○	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	施設での理美容利用の方は、好みを伺い伝えている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	把握している希望に添い、更衣、散髪の支援をしている。			○	
		h	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	厨房で一括調理をしている。ユニットで炊飯し準備や後片付けなど、出来ることを手伝って頂いている。				
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	厨房で一括調理をしている。ユニットで炊飯し準備や後片付けなど、出来ることを手伝って頂いている。				年2回嗜好調査を行い、利用者の好みを把握し、法人の管理栄養士が意見を反映した献立を作成している。複合施設の厨房で調理された食事が届けられ、事業所内で炊飯や盛り付けを行い、利用者に食事を提供している。利用者には、テーブル拭きや食器洗いなどのできることを手伝ってもらっている。また、職員がおやつを手作りしており、豆腐を使ったフルーツ白玉やホットケーキ、おしるこなどを提供し、利用者に喜ばれている。アレルギーの有無のほか、苦手な食材がある場合には、代替の食材を提供している。混ぜご飯が苦手な利用者には、白ご飯を提供したり、野菜の苦手な利用者には、ご飯を少し多めにするなどの対応をしている。食器類は、基本的には利用者の使い慣れた物を持参してもらっているが、事業所で用意した使いやすい物を使用してもらっている。さらに、利用者の状況に合わせて、器の中が黒い茶碗や軽量の物を使用する利用者もあり、破損した場合には、家族にお願いして、新しい物を用意してもらうこともある。以前は、食事の際に、利用者と職員が同じテーブルで一緒に食事を摂ることができていたが、現在は感染対策のため、見守りや食事介助などのサポートに専念し、職員は別々に食事を摂るようになっている。重度な利用者にもリビングに出て過ごしてもらい、調理の音や匂いを感じてもらえるほか、メニューを説明するなど、見守りや食事介助時に積極的に職員は利用者へ声をかけて、コミュニケーションを図りながら、食事が楽しめるような配慮も行われている。利用者の嚥下能力に応じて、ミキサー食などの食事の形態にも対応している。加えて、管理栄養士から助言を受けることもでき、利用者の食事の量が少ない場合などには、栄養補助食品などを提供することもある。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	厨房からの一括調理で提供の為買い物などには行っては行かないが、後片付けなどは見守りで行っている。			△	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	厨房からの一括調理で提供の為買い物や調理などには参加できていないが、手作りおやつでは、職員と一緒に作ってもらっている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	嗜好品調査を実施し希望を献立に取り入れてもらっている。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって音づかいのよいもの等を取り入れている。	○	入居前に苦手なもの、アレルギーのある方は、把握し代替品を提供している。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼、嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	利用者一人ひとりの咀嚼、嚥下状態を把握し対応している。またおいしそうに見えるよう盛り付けの工夫をしている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	茶碗や湯のみ、おはしなどは自宅で使い慣れたものを持ってきてもらっている。			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	感染症対策の為職員はテーブルは別にしているが、利用者一人ひとりが安心して食事が摂れる様見守りをし、食べこぼしやむせ込み時は、配慮している。			△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	食事のメニューを伝えたり声かけや反応を確認しながら食事介助を行っている。	◎		◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	栄養士がカロリー計算を行い、バランスの取れた食事を確保している。水分摂取量も記入し確認している。				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	本人の状態によって食事形態の見直しを行っている。また水分摂取量が少ない方には時間を置いてこまめに声かけをしている。				
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	栄養士がカロリー計算を行い、バランスの取れた食事の提供ができています。			◎			
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	食中毒の勉強会に参加し、冷蔵庫のチェックを行い賞味期限などを把握している。						

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	口腔ケアの勉強会に参加し内容を共有し、口腔ケアの必要性を理解できている。	/	/	/	職員は勉強会で学び、口腔ケアの重要性を理解している。毎食後に、職員は声をかけ、利用者は歯磨きなどの口腔ケアを実施し、必要に応じて、サポートを行うとともに、利用者の口腔内の状況を確認している。また、週1回訪問歯科の来訪があり、口腔内を診てもらうとともに、利用者に応じた口腔ケアの方法などの助言を受けることもできている。中には、利用者の状況に応じて、舌ブラシやガーゼなどの口腔ケア用品を使用し、適切な口腔ケアを行うこともある。さらに、歯科医による診療結果は記録に残し、職員間で共有をしている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	毎食後口腔ケアを行い、声かけをしながら口腔内の状態を確認している。	/	/	◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	勉強会に参加し、日々の支援に活かしている。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	毎食後、声かけをしながら義歯の手入れを行っている。夜間は入れ歯洗浄剤で除菌している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	○	毎食後、声かけをしながら状態を確認している。異常時は看護師、家族に報告し歯科受診をしている。	/	/	○	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	トイレでの排泄支援に努めている。	/	/	/	事業所では、基本的にトイレで利用者が排泄できるよう支援している。利用者家族等アンケート結果からも、事業所の排泄支援について、家族から満足を得ていることが分かる。また、利用者一人ひとりの排泄状況やパターンを把握し、声かけやトイレ誘導などの適切な排泄支援に努めている。中には、夜間のみポータブルトイレを使用する利用者もいる。さらに、排泄用品を使用する場合には、排泄状況に応じて職員間で検討するとともに、家族と相談した上で、利用者の状況にあった適切な用品を使用している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	便秘がもたらす影響や病気について理解に努めている。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	排泄チェック表を活用し一人ひとりの排泄パターンを把握している。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	利用者一人ひとりに合わせトイレ誘導やポータブルトイレの活用をしている。	◎	/	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	日中はトイレでの排泄に努めている。また排泄が困難な場合は、腹部をマッサージしたりし促すようにしている。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	利用者一人ひとりに合わせ定期的に声かけ、トイレ誘導をしている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	時間や状態に応じてパッドを選んで対応し、トイレでの排泄に努めている。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	利用者個々の習慣や状態に合わせて選定している。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	リハビリ体操や歩行練習等の声かけをしている。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	週2回の入浴支援を行っている。その日の希望に合わせて入浴を行い、利用者に応じてあつ湯める湯等対応している。	◎	/	◎	週2回を基本として、午前中の時間帯に利用者は入浴することができる。入浴回数の増の希望が出された場合には、可能な範囲で柔軟に対応している。また、希望に応じて、好みの湯の温度に対応するとともに、足浴やシャワー浴、清拭を行うなど、利用者の清潔保持にも努めている。湯船に浸かる時間は、15～40分程度と幅広くするとともに、一番風呂を希望などの入浴順にも対応している。さらに、重度の利用者には、清拭の対応を行うほか、複合施設内の機械浴槽を活用して、安心安全に入浴できるよう支援している。中には、入浴を拒む利用者もおり、無理強いすることなく、人や時間帯をずらして声かけをしたり、日にちを変更したりするなど、柔軟な対応を行い、利用者に入浴してもらえるよう工夫をしている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	個別入浴を行いゆっくりと過ごして頂いている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	手の届くところは自身で洗ってもらっている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	無理強いすることのないよう声かけの工夫を行い入浴してもらっている。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	バイタルチェックを行い健康状態を把握し入浴支援を行っている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	一人ひとりの生活習慣を把握している。	/	/	/	事業所では、体操や外気浴などを取り入れ、日中の活動量を多く確保するなどの工夫を行い、夜間に利用者が安眠できるよう支援している。夜間の安眠の妨げにならないように、昼寝の時間は、30～60分程度としている。また、月2回の医師の訪問診療の際に、利用者の睡眠状況を報告するとともに、指示や助言を受けることもできている。さらに、不眠が続く場合には、利用者の体調面などを考えて医師に相談し、眠剤などを処方しに繋がる利用者もいる。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	昼夜逆転傾向の方には、日中の活動が出来るよう支援している。	/	/	/	
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	回診時に医師とも相談し総合的な支援を行っている。	/	/	◎	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	一人ひとりの状態に応じて休息が取れるよう声かけをしている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	希望時電話の取次ぎを行っている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	状態に合わせて手紙のお返事を書いてみないか等声かけに努めている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	携帯電話の使用や希望時電話を掛ける支援が出来るようにしている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	本人に手渡ししている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	家族に協力が得られるよう努めている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	理解できている。家族と相談し所持されている方もいる。	/	/	/	
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	相手先の理解、協力をして頂いている。	/	/	/	
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	自動販売機でのジュースの購入や移動のパンやさんの利用など、お金を使える支援を行っている。	/	/	/	
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	本人の状態に合わせて対応している。	/	/	/	
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	金銭管理が出来ない方は、原則預からないようにしている。契約時にも説明している。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	本人や家族のニーズに柔軟に対応できるようにしている。	◎	/	○	コロナ禍が続く、外出や面会などの制限が設けられ、施設外へ外出できる機会は激減している。また、オンラインの面会のほか、玄関スペースで、ガラス越しの面会となっているが、終末期には、フェイスシールドを装着するなど、感染対策を講じた上で、居室内で10分程度利用者と家族が過ごしてもらうようにしている。
(3) 生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関前には花やベンチを設置し、来訪時には元気な挨拶を行っている。	◎	◎	○	複合施設の玄関前には、ベンチが置かれているほか、日々草やペチュニア、ヒマワリ、パンジーなどが植えられ、明るい雰囲気を感じられる。玄関スペースには、熱帯魚の水槽が置かれている。また、複合施設の外壁には、施設名等が大きく表示され、道路沿いにあり、広い駐車場も完備され、車で来訪しやすくなっている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を感じ、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていない等。)	○	リビングには季節に応じた飾り付けをし、季節感を感じて頂けるように工夫している。	○	○	○	広々としたリビングには、コスモスの花の工作のほか、ハロウィンのかぼちゃやお化けの飾り付けなどの季節の飾り付けが行われ、利用者や来訪者は季節を感じる事ができる。リビングにあるテレビの前にはソファが置かれ、利用者はくつろいだり、利用者同士で会話ができるようにしている。また、共用空間は清掃のほか、整理整頓が行き届き、換気や消毒も行われ、快適な空間となっている。広い廊下には不要な物を置かず、利用者の動線を確保している。さらに、トイレには消臭スプレーを置くなど、いやな臭いが漂わないような配慮が行われ、訪問調査日には、不快な音や臭いなどは感じられなかった。加えて、リビングから広々とした中庭に出ることができ、大きな掃き出し窓から、日差しが差し込み明るい。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	消臭剤も活用し臭いがないよう配慮し毎日清掃を行っている。	○	○	○	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節ごとに飾りつけなど工夫している。また快適に過ごせるよう室温管理を行っている。	○	○	○	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	テーブル席は気の合う利用者が過ごせるようにしている。	○	○	○	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	寝具や家具など本人が使っていたものを使用し好みにあう居室づくりをしている。	◎	◎	◎	居室にはベッドやタンス、床頭台が備え付けられている。利用者は、馴染みのある物を持ち込むこともできる。中には、家族の協力を得て、季節ごとに衣類や寝具が取り替えられ、居心地の良い空間を保つことのできている居室もある。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	一人ひとり声かけを工夫し、出来ることが継続できるようにしている。	○	○	○	大きくトイレを表示するほか、居室にも名札を掛け、利用者が混乱しないよう工夫をしている。また、共用空間には、書籍コーナーが2か所設置され、利用者は雑誌や詩集などを手に取り、自由に読めるようになっている。
		b	利用者の活動意欲を醸成する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	使い慣れたお茶碗やお箸、湯のみなどを使用していただき、居室にはご自身の寝具や馴染みの家具を用意して頂いている。	○	○	○	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	○	事業所全体で、身体拘束の勉強会を行い、自身の身になって考えられるように努めている。また、離棟に注意し見守りしている。	◎	◎	○	定期的に、身体拘束などの勉強会を実施し、職員は鍵をかけることの利用者の心理的弊害などを学び、職員は理解をしている。ユニットの出入口は、利用者の安全確保もあり、建物の構造上で電子キーを導入して施錠をしているが、日中に玄関は開放をしている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	家族に理解して頂けるように努めている。	○	○	○	
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	情報や申し送り等で共有している。	○	○	○	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	毎日のバイタル測定、様子観察を行い、記録に残し申し送りしている。	○	○	○	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	看護師や医師に報告、相談し対応している。	○	○	○	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師を受診できるよう支援している。	○	入居前に意向を伺い、馴染みのある医療機関を受診できるよう支援している。	◎	○	○	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	少しの変化にも、医師の判断を伺うようにしている。また、本人、家族からの要望を聞き、汲み取っている。	○	○	○	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	通院前には、家族に連絡を行い、同意の上通院を行い、通院後は家族に報告をしている。また、家族対応の場合においても、情報共有できるようにしている。	○	○	○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	既往歴、現在の状態など情報提供をしている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	日頃から病院との情報交換に努めている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	日々のケアから気づきなど看護職員に伝え相談している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	オンコール体制でいつでも看護師に連絡できるようになっている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	毎日のバイタルチェック、様子観察を行い、早期発見、早期治療に努めている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	一人ひとりの薬の用法、用量について理解している。状態の変化など記録に残し、看護職員、医師、家族に報告を行っている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	服薬マニュアルを徹底し2重に服薬チェックを行い誤薬のないよう支援している。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	状態の変化、日々の様子観察を行っている。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	出来ることを説明し、理解が得られるように努めている。状態の変化に応じて話し合いを行い、意向の確認を行っている。				事業所には、「看取り介護指針、重度化した場合における対応の指針」があり、入居時に、家族等に看取り介護等の実施する際に、対応できることなどを説明している。終末期には、家族や主治医などの関係者を交えて話し合い、方針を共有している。また、看取り支援時には、フェイスシールドを着用し、10分以内での家族との居室での面会に対応をしている。さらに、看護師が作成した映像をユーチューブを活用して視聴してもらい、終末期における介助方法を職員に伝えるなど、質の高い支援が行えるよう努めている。多くの家族から、「利用者にとって住み慣れた事業所で最後まで看取り介護をしてほしい」などの希望が多くなっている。医療行為のほか、事業所で支援することができなくなった場合には、他の施設や病院に転院する利用者もいる。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	話し合いの機会を設け意向を確認し情報共有に努めている。	◎		◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	日々の勤務等により職員を把握している。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	説明をし、理解が得られるよう努めている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	家族の意向も踏まえ、かかりつけ医、看護職員と話し合いながら支援できるように取り組んでいる。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族と連絡を取り合いながら思いを共有できるように努めている。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	勉強会を行い、予防の対応や発生時のシミュレーションを行っている。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	内部研修に参加してワーカー会で話し合っている。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	○	医療機関や主治医、テレビなどで情報収集している。				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	日頃より手洗いやうがい、アルコール消毒を徹底している。また利用者にも手洗いをして頂いている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
II. 家族との支え合い										
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	本人や家族との関係を大切にしている。				以前は家族会を開催して、カレーやフルーツポンチなどを調理し、事業所内で利用者と一緒に食べてもらうなど、家族が事業所の活動に参加することができていたが、コロナ禍などの感染対策が続き、現在は家族の参加できる行事などの開催は自粛をしている。家族とのオンライン面会に対応するほか、玄関スペースでガラス越しの面会にも対応をしている。また、電話連絡や事業所便りを活用して、利用者の様子や事業所の出来事を家族と共有できるよう努めている。さらに、事業所便りを年3回発行し、事業所の活動のほか、職員の異動や新入職員の紹介などを掲載し、請求書と合わせて送付をしている。家族が来訪する機会が少ないこともあり、利用者家族等アンケート結果から、事業所の運営上の出来事や事柄、職員の入退職などについて、家族から十分な理解を得られていないことが窺えるため、事業所便りの発行頻度の増やして報告をしたり、感染状況が落ち着いた際には、家族会を再開して報告をしたり、利用者や交流できる機会を設けるなど、周知方法を職員間で検討していくことを期待したい。	
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	△	感染症対策の為家族の活動参加はできていないが、外部の医療機関受診後買い物や自宅に寄られることはある。	x		△		
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たよりの発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	面会時には本人の生活の様子を伝えている。また、毎月計画書の実施状況、健康状態把握表を送付している。	◎		◎		
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	認知症による症状や心理状況について説明しより良い関係を築いていけるよう支援している。					
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	運営推進会議に参加して頂き行事報告など行っている。		x			△
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	リスクについて説明し、適切な対応ができるよう努めている。					
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	気軽に話しやすい雰囲気作りや、対応に努めている。					◎
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	その都度説明を行い、理解、納得をして頂いている。					
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	家族に必要な説明を行い、新しい入居先にも情報提供を行い、スムーズに退居できるよう支援している。					
III. 地域との支え合い										
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域、事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議を通して理解を得られるよう努めている。		◎		以前は、ボランティアを受け入れたり、障がい者支援施設等の利用者と交流をしたりするなど、地域と交流することができていたが、現在は感染対策もあり、交流できる機会は減少をしている。職員は、近隣住民と挨拶や会話を交わす程度となっていたが、令和5年の秋祭りには、神輿に参訪してもらうことができ、利用者には喜ばれている。今後、管理者は、「今後感染状況を確認しながら、少しずつ地域のネットワークを広げていきたい」と考えている。	
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	近隣学園との交流、地域の秋祭りへの参加など、地域の方々との関係が築けるよう努めている。		△	○		
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが「増えている」。	○	かかりつけの医療機関との連携、理美容の出張支援を受けている。					
		d	地域の人々が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	秋祭りなど地域の方々が集まれる場所を提供している。					
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるなど、日常的なおつきあいをしている。	○	日頃から元気な挨拶を行っている。					
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	秋祭りなど楽しみにされている。					
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	近隣の地域資源を把握し、買い物や理美容など協力して頂いている。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人の参加がある。	○	地域包括支援センターや民生委員、町内会長等参加して頂いている。	×	/	△	コロナ禍が続き、令和5年5月まで、運営推進会議は書面開催となっていたが、コロナの5類移行に伴って制限を緩和し、感染対策を講じた上で30程度の集合形式の会議を開催できるようになっている。感染対策もあり、家族への会議の案内までは送付をしていない。会議録は、玄関スペースに置き、来訪者が閲覧できるようになっている。家族の参加が得られていないこともあり、利用者家族等アンケート結果から、運営推進会議を活かした取り組みについて、十分な理解が得られていないことが窺えるため、感染状況が落ち着いた際には、全ての家族に会議の開催案内や議事録を送付したり、家族会等を活用して、会議の目的や意義を伝えたり、家族が会議に参画して意見をもらうなど、周知方法を職員間で検討することを期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	○	自己評価や、取り組みなど報告し、議事録に纏めている。またいつでも閲覧できるようにしている。	/	◎	○	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	出来るだけ多くの方が参加できるように、日程調整を行っている。	/	/	◎	
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	職員と考え、それぞれのユニットに掲示している。共有、認識が出来るようにし、実践できるよう努めている。	/	/	/	/
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	ユニットに掲示し誰でも読めるようにしている。「グループホームであい便り」に毎回理念を載せ、家族や運営推進会議メンバーに配布している。	○	×	/	
42	職員を育てる取り組み ※文書の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	年間の研修計画をたてて、職員の知識、介護技術の向上に努めている。	/	/	/	医師である代表者は、月1回程度事業所を訪問し、管理者から状況を聞くとともに、職員から出された意見を伝えることができる。また、年1回ストレスチェックを実施し、必要に応じて、カウンセリングなどの案内をしている。さらに、年間の研修計画を作成して、定期的に勉強会などを実施し、職員のスキルアップに努めている。加えて、有給休暇や希望休の取得を促すとともに、職員の出勤日数に応じて、法人独自のポイントを付与し、貯まったポイントを商品券などに交換できるシステムを導入し、福利厚生の充実にも努めているなど、働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	施設全体で技術や知識が向上できるように努めている。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	資格手当や給与のベースアップなど職員が意欲をもって働けるよう努めている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	様々な団体や、県、市主催の研修会等に参加できるよう心がけている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	ストレスチェックの実施により環境づくりに努めている。	◎	○	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃されることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	◎	勉強会に参加し、身体拘束適正化等検討委員会を設置し、意識向上に努めている。不適切ケアチェックシートを活用し、身体拘束に繋がらないようにしている。	/	/	◎	年2回虐待防止に関する勉強会を実施し、職員の理解促進に努めている。また、不適切な言動が見られた場合には、職員同士で注意し合うとともに、管理者から該当職員に確認を行い、個別に指導や注意喚起をしている。さらに、不適切ケアチェックシートを活用して、振り返りを行うほか、ワーカー会を活用して話し合い、職員の意識向上に努めている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返り話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	日々の申し送り等で、意見の交換をしたり、日々のケアに活かせるよう話し合っている。	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	年1回職員のストレスチェック診断を行い、各自に結果を伝え把握している。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	勉強会に参加し、理解、共有している。	/	/	/	/
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	定期的な勉強会を行い、学びを深めるとともに話し合い、ケアに活かしている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を促している。	◎	家族からの要望はないが、話し合って理解をしていただけるように努める。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解し、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	○	成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、知識の習得に努めている。制度や利点を含めて相談をお聞きするよう努めている。				
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	地域包括支援センターや専門機関に連絡を取ったことはないが、必要があれば連携体制を築いていきたい。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	事故や急変時のマニュアルがあり、緊急時には迅速な対応が出来るようにしている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	すべての職員が、定期的訓練を行い慌てずに適切な対応ができるよう努めている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	ヒヤリハットや事故が発生した場合は、書式に記録し、申し送りやカンファレンスを行い、検討するようにしている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	ひとりひとりの状態の把握に努め、リスクを検討し事故予防に努めている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	◎	苦情解決処理要領、苦情受付書を作成し、対処、改善を行うようにしている。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	苦情については、速やかに対応を行い、苦情の内容を検討している。必要場合は関係機関に報告を行うようにしている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	◎	苦情の内容を検討し、速やかな対応を行っている。サービス内容の改善や経過を伝え、納得して頂くようにしている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつけている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	運営推進会議、面会時にお話を伺うようにしている。ケアプラン送付の際にも意見や要望等記入して頂けるようにしている。	◎		○	日々の関わりの中で、担当職員を中心に、利用者から意見を聞いて把握し、可能な範囲で対応をしている。家族には、面会時や電話連絡時を活用して、意見を聞くようにしている。また、事業所の玄関に意見箱を設置し、家族等から意見を収集できるように工夫しているが、家族が来訪する機会が少ないこともあり、近年はほとんど意見が入らない状況が続いている。さらに、管理者は、平時から職員とのコミュニケーションを大切に考え、職員から意見を聞くことを心がけており、職員は、管理者に相談や意見を伝えやすいと感じている。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	相談を受けた時等説明させて頂いている。				
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつけている。	○	可能な限り、現場に赴き職員の声を直接聴くようにしている。				
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	ワーカー会等で一人ひとりの意見やアイデアを聞くように努めている。			○	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	施設独自の自己評価を行い、振り返りを行っている。				外部評価の自己評価は、ユニット毎に作成をしている。サービスの評価結果は、玄関スペースに置き、来訪者は自由に閲覧することができるほか、運営推進会議の中でも、参加メンバーに報告をしている。現在は、会議に家族の参加がないため、家族に評価結果を報告することはできていない。今後は、感染状況が落ち着いた際に、集合形式の会議に家族に参加案内のほか、議事録を送付したり、会議の参加メンバーに目標達成状況の取り組みのモニターを呼びかけて、意見をもらったりするなど、出された意見を反映しながら、サービスの質の向上に繋げることも期待される。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	◎	課題を達成できるように取り組んでいる。				
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	◎	外部評価の内容は、玄関にいつでも読めるよう設置してあり、運営推進会議において報告させて頂いている。	○	○	○	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	◎	ワーカー会などで課題に挙げ検討するようにしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	年2回消防署の指導による避難訓練を実施し、職員の防災意識を高めている。				年2回、火災や昼夜などの想定した避難訓練を実施している。以前は、消防署の協力を得て、訓練を実施することもできていた。感染対策もあり、訓練には利用者の参加はできていないため、職員が利用者役を担い、避難を想定した模擬訓練も実施している。また、複合施設として、市行政から福祉避難所の指定を受け、水や食料などの備蓄品を用意するとともに、災害発生時の連携や応援体制を整えている。さらに、コロナ禍以前は、家族が運営推進会議に参加し、会議の中で、避難訓練の案内や結果報告を行うことができていたが、現在は家族等への報告はできておらず、利用者家族等・地域アンケート結果から、災害への備えの十分な理解が得られていないことが窺えるため、感染状況が落ち着いた際には、会議の参加メンバーや家族に避難訓練の参加を呼びかけたり、集合形式の運営推進会議の中で、災害対策を話し合ったり、地区の自主防災組織に呼びかけて、一緒に合同訓練を実施するなど、安心安全な取り組みへの理解が得られるように、周知方法を職員間で検討することを期待期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるように、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	防災訓練では時間帯別(日中や夜間)に応じた訓練を行っている。				
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	月1回は、備品のチェックを行っている。				
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	運営推進会議などにおいて、顔なじみの関係を築こうとしている。地域の福祉避難所となっており支援体制確保に努めている。	×	×	△	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	近隣の障害者施設の避難訓練に協力させて頂いている。また、今後事業所連絡会も開催予定と聞いているので地域の事業所とも防災について話し合いたいと思っている。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	運営推進会議では、地域の人たちが集う場所として提供できる場所であることを助言し介護予防教室等の情報発信に取り組んでいる。				複合施設・事業所に相談が寄せられた場合には、快く対応をしている。また、研修や会議に参加する機会は減っているものの、市行政や地域包括支援センターなどの関係機関と平時から連携を図ることができている。コロナ禍以前は、複合施設として、「であい憩いカフェ」という認知症カフェを開催するとともに、地域住民等に対して、介護教室や相談支援などを実施することもできていた。現在は法人の方針で、感染対策もあり、ボランティアや養成校の学生の実習などの受け入れも行うことはできていない。今後は、感染緩和に伴い、少しずつ市行政や地域包括支援センターなどの催しやイベントに協力するとともに、認知症カフェが再開されることも期待される。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	運営推進会議のメンバーや電話での問い合わせ等相談支援をしている。			△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	△	コロナ禍の為自粛していたが、以前は介護予防教室、認知症カフェ等を行い、地域の交流スペースとして活用して頂いていた。今後再開される事業所連絡会の会場として活用してもらおう予定している。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	ボランティアや研修実習生の受け入れ、初任者研修受講の窓口を行っている。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	運営推進会議には、市担当者、包括職員の参加を得ている。今後再開される事業所連絡会では、交流や防災等課題について協働していきたい。			○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 5 年 10 月 26 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 13名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	9名	

※事業所記入

事業所番号	387010449
事業所名	グループホーム であい
(ユニット名)	桜の宿
記入者(管理者)	
氏名	田中 雅子
自己評価作成日	令和 5 年 10 月 5 日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】 思いやりとぬくもりがあり、笑いの絶えない暮らしをお手伝いします。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 「グループホームであいより」を発行し、利用者様の活動の様子や事業所の理念、運営など情報を発信する。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 市内南西部の住宅街の中にある事業所は、重信川が近くに流れるほか、近隣に田畑が広がるなど、ゆったりとした閑静な環境の中で、利用者は穏やかに生活を送ることができる。事業所の入る建物は複合施設で、介護付き有料老人ホームやケアハウス、デイサービスが併設され、必要に応じて連携が図ることができるなど、地域のケア拠点として貢献をしている。また、管理者のリーダーシップのもと、職員同士の良好な関係性が築かれ、利用者の思いに寄り添いながら、事業所の理念である「思いやりとぬくもりがあり笑いが絶えない暮らしをお手伝いします」という生活の実現を目指した支援が行われている。さらに、利用者一人ひとりの残存能力を活かしながら、リハビリ体操を取り入れるなどの支援が行われている。事業所内には広々とした中庭が設置され、外出制限が設けられている中でも、中庭に出ておやつを食べたり、外気浴をしたり、夏祭りの行事を開催するなど、利用者を楽しみのある生活を送れるように工夫をしている。加えて、有給休暇や希望休の取得を促すとともに、職員の出動日数に応じて、法人独自のポイントを付与し、貯まったポイントを商品券などに交換できるシステムを導入し、福利厚生充実の充実にも努めるなど、働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。</p>
---	---	--

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	日常会話の中から訴えや、思いを汲み取り意向の把握に努めている。	○	/	○	
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	本人の視点になって考え、検討している。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	家族に日々の暮らしぶりを伝え、ご本人の気持ちや思いについて話し合っている。	/	/	/	日々の会話の中で、管理者等は利用者から思いや希望を聞き、記録に残して職員間で共有をしている。早期に共有すべき情報は、連絡ノートに記載して閲覧するほか、朝夕の申し送りを活用して、伝達している。
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	基本情報・アセスメント表に記録し職員間で情報共有に努めている。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	職員の思い込みにならないよう職員間でケア時の気づき等話し合っている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入居前面談にて、これまでの生活歴やこだわり等本人や家族から情報収集をしている。	/	/	○	入居時に、管理者等は利用者や家族と面談を行い、生活歴や馴染みの暮らし方などの聞き取りをしている。医療機関からの紹介で、入居に繋がる場合には、担当看護師等から情報を聞くとともに、サマリーなどの情報を提供してもらっている。また、他の施設から転居する場合には、担当の介護支援専門員から情報を得ている。把握した情報は、アセスメントシートに記載し、職員間で共有をしている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	日々のケアや、声かけ時の表情を見ながら出来ることなど観察し、現状の把握に努めている。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に務めている。(生活環境・職員のかかわり等)	○	一人ひとりの過ごし方や、日々の変化や気づき等記録に残し申し送りを行っている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	利用者個々の担当職員を中心に本人視点での生活の気づきや思い等話し合い、検討している。	/	/	○	入居前に、把握した利用者の思いや意向に沿った支援に努めるとともに、入居後も、利用者毎の担当職員が、新たな情報を聞き、随時職員間で共有しながら話し合い、利用者がより良く暮らすための支援を検討し、実践をしている。
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	○	よりよく暮らすための課題を話し合いケアのあり方について話し合っている。	/	/	/	
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人や家族からの意向を踏まえて介護計画を作成している。	/	/	/	
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人や家族からの意向を踏まえ、課題や日々のケアのあり方について職員間で話し合っている。	○	/	○	事前に、担当職員が利用者や家族から意見を聞くとともに、医師などの関係者から指示やアドバイスをもらい、アセスメント情報や把握した情報をもとに担当者会議の中で話し合い、担当職員と計画作成担当者を中心に介護計画を作成している。また、職員同士の良好な関係性が築かれ、業務中に利用者のケアなどをこまめな話し合いをすることができ、食事介助の工夫をするなど、計画や支援内容に反映することができている。中には、電話連絡時に家族から、利用者の好きなトマトジュースの情報を把握し、定期的に飲み物を提供するようになった事例もある。
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	重度になっても、可能な限り慣れ親しんだ暮らし方が出来るように家族や職員間で話し合っている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	利用者の状態によっては、家族や他事業所の協力をお願いしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	介護計画の変更時には、事前に職員に回覧し周知に努めている。日々の記録の際にも介護計画の内容を確認できるようにしている。	/	/	/	○ 介護計画は、ケース記録と一緒に個別のファイルに綴じられ、確認しやすい場所に置くとともに、職員は記録時に計画を確認できるようになっている。ケース記録には、介護計画に沿った支援の実施の有無を記録に残し、介護計画の更新時等に、評価を行いやすくなっている。また、日々の出来事のみを記録に残すことなく、普段と変化した利用者の様子のほか、発した言葉の内容などを詳細に記載するようにしている。さらに、介護計画の内容に変更があった場合には、職員に回覧し、情報を共有している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	日々の記録が介護計画の見直しに活かせるようにしている。また、出来なかつた理由等も記録をしている。	/	/	/	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	期間に応じて見直しを行っている。	/	/	/	○ 介護計画は、3か月に1回を基本として、見直しをしている。新たに入居した利用者場合には暫定計画を作成し、1か月で計画の見直しをしている。状態の変化が見られない利用者も含めて、月1回担当職員がモニタリングを行い、利用者の現状を確認している。また、状態の変化が見られた場合には、家族に報告するとともに、職員間で話し合い、現状に即した介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	毎月モニタリングを行い、介護計画の実施状況、介護支援専門員のコメント、看護師から医療面の報告を行っている。	/	/	/	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	新規入居者は1ヶ月程度、他は3ヶ月に1回見直しを行っている。また、利用者の状況に変化があった場合も見直しを行っている。	/	/	/	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	ワーカー会を月1回開催し、日々のケアで気づいたことや気になることを話し合っている。また、緊急を要する場合は連絡ノートで共有するようにしている。	/	/	/	○ 全ての職員を対象に、月1回ワーカー会を開催し、利用者のより良いケア方法や課題などの話し合いをしている。怪我や骨折などの緊急時には、医師や看護師の指示を受けて対応をしている。緊急案件のある場合には、その日の出勤職員で話し合うとともに、話し合われた情報は連絡ノートを活用し、情報を共有している。また、会議に参加できなかった職員には、会議録を確認してもらい、重要事項は連絡ノートに記載するとともに、口頭で伝達している。さらに、法人内には、感染症対策委員会や身体拘束適正化検討委員会などの各種委員会が設置され、話し合われた内容を事業所内で共有し、利用者の支援や運営に反映している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	職員一人ひとりの意見を大切に、意見交換をしている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	○	可能な限り順番に会議に参加している。参加できなかった職員にも伝わるよう会議録や連絡ノートで共有している。	/	/	/	
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	朝夕申し送りを行い、重要事項は連絡ノートに記入し情報共有をしている。	/	/	/	○ 日々、重要事項を記載した連絡ノートなどを活用して、朝夕の申し送りを実施している。また、業務中にも職員同士のこまやかなコミュニケーションが図られ、情報共有をしている。さらに、出勤時等に連絡ノートを確認し、確認後に職員は押印を行い、伝達漏れがないようにしている。
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	日頃から本人の意向を伺い、出来るだけ希望に添えるよう努めている。	/	/	/	○ 毎月、利用者はカレンダーの色を塗り、居室に飾っており、どのカレンダーの図柄に色を付けるかを、利用者自身に選んでもらっている。牛乳やジュース、コーヒーなどの飲み物も、利用者自身に選んでもらうことができている。また、洗濯物たたみや入浴の有無など、生活の様々な場面で職員は声をかけ、利用者が自己決定ができるよう支援している。さらに、利用者から生き生きとした言動を引き出せるように、以前の職業の話題などを取り入れ、薬剤師をしていた利用者や服薬のことを話したり、美容師をしていた利用者には、シャンプーの仕方を聞いたりするなど、会話が弾むこともある。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくらせている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	更衣時の衣服や誕生日のケーキ、毎月のカレンダーの絵柄等選択する場面をつくっている。	/	/	/	
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	これまでの生活歴や一人ひとりのペースにあわせ、出来るだけ希望に添えるように努めている。	/	/	/	
		d	利用者の生き生きとした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	積極的に声かけを行い、利用者の言動を引き出せるようにしている。	/	/	/	
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らしができるよう支援している。	○	声かけを行い、本人の表情の変化や身体の動きなどを確認しながらできるだけ意向に添えるよう努めている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、自立たずさげない言葉かけや対応等)	○	勉強会への参加や、不適切ケアチェックシートで自己評価を実施し日々のケアの振り返りを行っている。	◎	○	◎	○ 3か月に1回、不適切ケアチェックシートを職員に記載してもらい、支援を振り返る機会を設けている。法人の産業医から、不適切なケアに対する助言をもらうほか、人権や尊厳などの勉強会を開催し、職員の理解促進に努めている。また、利用者と呼ぶ際に、名字にさん付けをして呼んでいるが、利用者から希望が出された場合には、家族に確認した上で、下の名前にさん付けをして呼ぶこともある。さらに、耳の聞こえにくい利用者には、目線を合わせて耳元でゆっくりと声かけをするようにしている。加えて、居室を利用者専用の場所であることを職員は理解し、居室に入室する際に、ノックしてから返事を待ち、了承を得てから入室するとともに、退室時にも「ありがとうございます。また、来ますね」などと声をかけてから退室をしている。居室の不在時にも、事前に職員は利用者にて用件を伝え、了承を得た上で入室をしている。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	◎	不安や羞恥心への配慮に十分努めている。プライバシーに配慮し尊厳を失わないよう努めている。	/	/	/	
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室が利用者個々の家であることを意識、理解出来ており十分配慮している。	/	/	/	
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	勉強会や、個人情報漏洩シートのチェックにより意識付けができています。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	テーブル拭きや洗濯物量などの役割を担って頂いている。感謝を伝え信頼関係を築いている。	/	/	/	職員は、利用者同士の性格や関係性などを把握し、配席などの考慮をしている。大きな声を出すなど、トラブルが発生しそうな場合には、早期に職員が間に入り、話を聞くなどの対応をしている。また、話し好きな利用者が、他の利用者に声をかけて会話を楽しんだり、世話好きな利用者が、下膳を手伝ったりするなど、利用者同士の助け合いや支え合う場面も見られる。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	共同生活の中で支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになつたり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらつ場面をつくる等)。	○	リビングでは気の合う方と過ごせるようお席に配慮している。	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルに進展する前に間に入りゆっくりとお話を聴いたり、ほかの事で気がまぎれるようにしている。	/	/	/	
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	面談時や面会時などに家族に聞き取りを行っている。	/	/	/	
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていったりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	コロナ禍による面会制限によりあまりできていない。ドライブなどで自宅近くや馴染みのある景色を楽しめるよう努めている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	戸外への散歩や中庭に出でいただき、外気に触れる時間を設けている。	×	△	△	コロナ禍やインフルエンザなどの感染対策が続き、施設外へ出かける支援に制限を設けており、利用者の外出できる機会は減少をしている。日頃から、中庭でおやつを食べたり、外気浴をしたりするなど、少しでも利用者が気分転換を図れるよう支援している。また、事業所便りから、利用者が複合施設の敷地内にある畑でトマトを収穫したり、散歩をしたりする様子の写真を確認することができた。利用者家族等アンケート結果から、日常的な外出支援への取り組みに十分な理解を得られていないことが窺えるため、今後は、感染状況を確認しながら、徐々にドライブや事業所周辺の散歩などの外出支援を再開したり、お便りや手紙等で家族に外出支援の状況を報告したりするなど、少しずつ理解を得られるような取り組みが行われることを期待したい。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	家族支援により受診等の外出されている。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	認知症や行動・心理症状について、勉強会参加やワーカー会で話し合い、ケアに活かせるよう努めている。	/	/	/	事業所として、利用者一人ひとりのできることやできないことを把握し、自分で靴下を履いてもらったり、職員がスポンジに洗剤を付けて、利用者に渡して食器洗いをもらったりすることができている。また、手や口を出しすぎない待つ介護に努め、着替えなどの際に、できることは自分でしてもらい、職員はできない部分のフォローをしている。さらに、月1回のワーカー会の中で、利用者の残存機能を踏まえた支援内容などを話し合い、より良い支援に努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	昼食前には口腔体操、リハビリ体操を行っている。また一人ひとりに合わせ生活動作の見守りを行い、身体機能を維持できるようにしている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	利用者のペースに合わせ見守りを行っている。理解が出来ていない際は分かりやすい言葉で説明し助言を行っている。	◎	/	◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	機能に応じてお手伝いをして頂いている。	/	/	/	テーブル拭きや食器洗い、洗濯物たたみなど、職員は声をかけ、一人ひとりの利用者の出番や役割づくりをしている。また、歌の上手な利用者には、歌を披露してもらうなどの出番を担ってもらうこともできる。さらに、今年の秋祭りには、神輿に訪訪してもらい、利用者の喜ぶ様子を見ることができた。加えて、裁縫が得意な利用者には雑巾を縫ってもらったり、生け花の好きな利用者には教えてもらったりするなど、利用者の好きなことや得意なことを活かした関わりや支援にも努めている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごすように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	一人ひとりの機能を理解しそれぞれ役割や趣味を活かし、張り合いのある生活が送れるよう努めている。	○	○	○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つとらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	その人の好みの色や服装を把握している。				起床時に、職員は声をかけて、着替えや整容などの身だしなみを整えてもらえるよう支援をしている。男性利用者には、電気シェイバーを渡して自分で髭剃りをしてもらい、職員は剃り残しなどのフォローをしている。また、食事などの際に、衣服の汚れた場合には、利用者のプライドを大切に、さりげない声かけを行い、居室に移動して着替えてもらうなどの対応をしている。さらに、重度の利用者には、髪をくすでいたり、好みの服に着替えてもらったりするなど、本人らしさを保てるような支援にも努めている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	これまで使用してきた好みの持ち物をそろえてもらっている。また、希望に応じて美容室を利用してもらっている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	声かけを行い、表情を確認しながら毎日の身だしなみに気を配っている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しむよう支援している。	○	外出時には衣類調整を行っている。好みの服装ができるよう支援している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	口腔ケア時に確認し食べこぼしや汚れがある場合はすぐに更衣を行っている。	◎	○	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	施設での理美容を利用されている。希望を伺い伝えている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	本人の体調に配慮しながら支援している。			○	
		h	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	厨房で調理をしている。ユニットで炊飯を行い、準備や後片付けなどできることを手伝ってもらっている。				
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	厨房で調理をしている。ユニットで炊飯を行い、準備や後片付けなどできることを手伝ってもらっている。				年2回嗜好調査を行い、利用者の好みを把握し、法人の管理栄養士が意見を反映した献立を作成している。複合施設の厨房で調理された食事が届けられ、事業所内で炊飯や盛り付けを行い、利用者に食事を提供している。利用者には、テーブル拭きや食器洗いなどのできることを手伝ってもらっている。また、職員がおやつを手作りしており、豆腐を使ったフルーツ白玉やホットケーキ、おしるこなどを提供し、利用者に喜ばれている。アレルギーの有無のほか、苦手な食材がある場合には、代替の食材を提供している。混ぜご飯が苦手な利用者には、白ご飯を提供したり、野菜の苦手な利用者には、ご飯を少し多めにするなどの対応をしている。食器類は、基本的には利用者の使い慣れた物を持参してもらっているが、事業所で用意した使いやすい物を使用してもらってもある。さらに、利用者の状況に合わせて、器の中が黒い茶碗や軽量の物を使用する利用者もあり、破損した場合には、家族にお願いして、新しい物を用意してもらうこともある。以前は、食事の際に、利用者と職員が同じテーブルで一緒に食事を摂ることができていたが、現在は感染対策のため、見守りや食事介助などのサポートに専念し、職員は別々に食事を摂るようになっている。重度な利用者にもリビングに出て過ごしてもらい、調理の音や匂いを感じてもらえることができるほか、メニューを説明するなど、見守りや食事介助時に積極的に職員は利用者へ声をかけて、コミュニケーションを図りながら、食事が楽しめるような配慮も行われている。利用者の嚥下能力に応じて、ミキサー食などの食事の形態にも対応している。加えて、管理栄養士から助言を受けることもでき、利用者の食事の量が少ない場合などには、栄養補助食品などを提供することもある。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	厨房で一括調理をしている為献立作りや食材選び、調理には参加できていない。後片付けなど手伝ってもらっている。			△	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	厨房で一括調理しているので買い物などには参加できていないが、手作りおやつと一緒に作ってもらったりしている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	入居前に苦手なものやアレルギーなどを聞き、共有し把握出来ている。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。	○	嗜好品調査を行い、利用者の好みのもや希望メニューを取り入れてもらっている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼、嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法として、おいしい盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	利用者の嚥下の状態などにあわせて調理法になっている。彩りよく見えるよう盛り付けに配慮している。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	これまで使い慣れたお茶碗、湯のみ、箸を持ってきてもらい使ってもらっている。			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	コロナ禍による感染症対策で職員と一緒に食事を摂っていない。利用者の食事中は一人ひとりの様子を見守り必要に応じて介助をしている。			△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	声かけを行い、食事メニューの説明をしながら介助をしている。		◎	◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	栄養士によりカロリー計算を行い、バランスのとれた食事が提供されている。水分チェックも毎日行っている。				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	本人の状態に応じて、食事形態の見直しや栄養補助食の提供を行っている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	栄養士によりカロリー計算を行い、バランスのとれた食事が提供されている。			◎	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	食中毒の勉強会に参加している。毎日冷蔵庫チェックを行い賞味期限などを把握している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	口腔ケアの勉強会に参加し、口腔ケアの必要性を理解している。	/	/	/	職員は勉強会で学び、口腔ケアの重要性を理解している。毎食後に、職員は声をかけ、利用者は歯磨きなどの口腔ケアを実施し、必要に応じて、サポートを行うとともに、利用者の口腔内の状況を確認している。また、週1回訪問歯科の来訪があり、口腔内を診てもらうとともに、利用者に応じた口腔ケアの方法などの助言を受けることもできている。中には、利用者の状況に応じて、舌ブラシやガーゼなどの口腔ケア用品を使用し、適切な口腔ケアを行うこともある。さらに、歯科医による診療結果は記録に残し、職員間で共有をしている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	毎食後声をかけしながら口腔内の確認を行っている。	/	/	◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	勉強会に参加し正しい口腔ケアの仕方について習得している。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	毎食後声をかけしながら義歯の手入れを行っている。夜間は入れ歯洗浄剤で除菌している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	○	毎食後、声をかけし口腔内の清潔保持が出来るようにしている。異常時は家族に報告し、歯科受診に繋げている。	/	/	○	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	声をかけながらなるべくトイレでの排泄に努めている。	/	/	/	事業所では、基本的にトイレで利用者が排泄できるよう支援している。利用者家族等アンケート結果からも、事業所の排泄支援について、家族から満足を得ていることが分かる。また、利用者一人ひとりの排泄状況やパターンを把握し、声かけやトイレ誘導などの適切な排泄支援に努めている。中には、夜間のみポータブルトイレを使用する利用者もいる。さらに、排泄用品を使用する場合には、排泄状況に応じて職員間で検討するとともに、家族と相談した上で、利用者の状況にあった適切な用品を使用している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	毎日排泄の状況をチェックし共有している。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排泄チェック表を活用し個々の排泄パターンを把握している。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	時間帯や状態に応じてパッドを選び対応し、トイレでの排泄に努めている。	◎	/	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	トイレでの排泄に努め成功例や失敗例など共有し改善に努めている。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	一人ひとりのパターンに合わせて定期的な声かけ、誘導を行っている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	時間や状態に応じて用品を選び、家族とも相談している。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	利用者の状態や習慣に合わせて選定している。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	リハビリ体操や歩行練習に努めている。自然排便を促す為、トイレ時状況に合わせて腹部マッサージを行っている。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	週2回の入浴支援をしている。個々の希望に合わせて入浴して頂いている。	◎	/	◎	週2回を基本として、午前中の時間帯に利用者は入浴することができる。入浴回数の増の希望が出された場合には、可能な範囲で柔軟に対応している。また、希望に応じて、好みの湯の温度に対応するとともに、足浴やシャワー浴、清拭を行うなど、利用者の清潔保持にも努めている。湯船に浸かる時間は、15～40分間程度と幅広くするとともに、一番風呂を希望などの入浴順にも対応している。さらに、重度の利用者には、清拭の対応を行うほか、複合施設内の機械浴槽を活用して、安心安全に入浴できるよう支援している。中には、入浴を拒む利用者もおり、無理強いすることなく、人や時間帯をずらして声かけをしたり、日にちを変更したりするなど、柔軟な対応を行い、利用者に入浴してもらえるよう工夫をしている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分に入浴できるよう支援している。	○	個別入浴を行っている。ゆっくりと入浴して頂いている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	洗身など出来る部分は本人にしている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	無理強いすることなく声かけの工夫をし、入浴支援をしている。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	バイタルや申し送り等で本人の健康状態を把握し、入浴支援を行っている。入浴後は水分を勧めながら本人の様子観察を行っている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	一人ひとりの生活習慣を把握している。本人の使い慣れた寝具を使用している。	/	/	/	事業所では、体操や外気浴などを取り入れ、日中の活動量を多く確保するなどの工夫を行い、夜間に利用者が安眠できるよう支援している。夜間の安眠の妨げにならないように、昼寝の時間は、30～60分程度としている。また、月2回の医師の訪問診療の際に、利用者の睡眠状況を報告するとともに、指示や助言を受けることもできている。さらに、不眠が続く場合には、利用者の体調面などを考えて医師に相談し、眠剤などを処方しに繋がる利用者もいる。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	昼夜逆転の傾向にある方は、日中の活動が活発になるようレクリエーションや運動の声かけを行っている。	/	/	/	
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	利用者の過ごし方に於いて気づきがある時は、看護師を通して医師にも相談し、総合的な支援に努めている。	/	/	◎	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	状態に合わせて居室で臥床する時間を取っている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるよう支援をしている。	○	お電話などは希望時いつでもできるように支援している。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	電話の取次ぎ支援を行っている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	希望時日中帯に電話が出来るよう支援している。プライバシーの配慮も行っている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	本人に必ず手渡しし内容の確認や返信ができるよう声かけを行っている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	協力していただけるようお願いしている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	理解できている。	/	/	/	
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	相手先の理解、協力を得るようにしている。	/	/	/	
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」など一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	お金が使える環境の支援を行っている。	/	/	/	
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	本人の状態に合わせて対応をしている。	/	/	/	
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	金銭管理が出来ない方には、原則預からないようにしている。契約時家族にも説明している。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	本人や家族のニーズに柔軟に対応できるよう努めている。	◎	/	○	コロナ禍が続く、外出や面会などの制限が設けられ、施設外へ外出できる機会は激減している。また、オンラインの面会のほか、玄関スペースで、ガラス越しの面会となっているが、終末期には、フェイスシールドを装着するなど、感染対策を講じた上で、居室内で10分程度利用者と家族が過ごしてもらうようにしている。
(3) 生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	施設共有の玄関となっている。玄関前には花やベンチを設置し、元気な挨拶を行っている。	◎	◎	○	複合施設の玄関前には、ベンチが置かれているほか、日々草やペチュニア、ヒマワリ、パンジーなどが植えられ、明るい雰囲気を感じられる。玄関スペースには、熱帯魚の水槽が置かれている。また、複合施設の外壁には、施設名等が大きく表示され、道路沿いにあり、広い駐車場も完備され、車で来訪しやすくなっている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を感じており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない寂風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていない等。)	○	リビングには季節に応じた飾り付けを行い、季節を感じていただけるようにしている。玄関には熱帯魚の水槽が置いてあり気分転換が図れるよう工夫している。	○	○	○	広々としたリビングには、コスモスの花の工作のほか、ハロウィンのかぼちゃやお化けの飾り付けなどの季節の飾り付けが行われ、利用者や来訪者は季節を感じることができる。リビングにあるテレビの前にはソファが置かれ、利用者はくつろいだり、利用者同士で会話ができるようにしている。また、共用空間は清掃のほか、整理整頓が行き届き、換気や消毒も行われ、快適な空間となっている。広い廊下には不要な物を置かず、利用者の動線を確保している。さらに、トイレには消臭スプレーを置くなど、いやな臭いが漂わないような配慮が行われ、訪問調査日には、不快な音や臭いなどは感じられなかった。加えて、リビングから広々とした中庭に出ることができ、大きな掃き出し窓から、日差しが差し込み明るい。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	直射日光が入らないようカーテンを調整し、臭いの発生にも配慮している。	○	○	○	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節や行事に合わせた飾り付けを行っている。また、室温にも気をつけ快適に過ごせるよう努めている。	○	○	○	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	リビングのテーブル席では気の合う方同士で過ごせるよう配慮している。	○	○	○	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	使い慣れた家具やお好きな音楽CDなど、個々に合わせた居室作りに努めている。	◎	◎	◎	居室にはベッドやタンス、床頭台が備え付けられている。利用者は、馴染みのある物を持ち込むこともできる。中には、家族の協力を得て、季節ごとに衣類や寝具が取り替えられ、居心地の良い空間を保つことのできている居室もある。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	環境整備に配慮し一人ひとりの出来ることが継続できるよう声かけを行っている。	○	○	○	大きくトイレを表示するほか、居室にも名札を掛け、利用者が混乱しないよう工夫をしている。また、共用空間には、書籍コーナーが2か所設置され、利用者は雑誌や詩集などを手に取り、自由に読めるようになっている。
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	使い慣れた茶碗、お箸、湯のみを使用していただき、居室には馴染みの物を用意して頂いている。	○	○	○	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	○	事業所全体で、身体拘束の勉強会を行い、自身の身になって考えるようにしている。また、家族にも理解を得られるよう努めている。	◎	◎	○	定期的に、身体拘束などの勉強会を実施し、職員は鍵をかけることの利用者の心理的弊害などを学び、職員は理解をしている。ユニットの出入口は、利用者の安全確保もあり、建物の構造上で電子キーを導入して施錠をしているが、日中に玄関は開放をしている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	外への散歩など希望があれば、いつでも自由に入出りが出来るように努めている。	○	○	○	
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	基本情報の確認や申し送りなど、共有し、話し合っている。	○	○	○	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	毎日のバイタル測定、様子観察を行い、記録、申し送りを行っている。	○	○	○	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	日々のケアの中で気になることがあれば、看護職員や医師に相談をしている。	○	○	○	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	馴染みの医療機関を受診できるように支援している。希望により、こちらでの医療機関の受診も行っている。	◎	○	○	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	少しの変化においても、医師の判断を伺うようにしている。また、本人や家族の不安や要望をお聞きし適切な医療が受けられるように努めている。	○	○	○	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	通院前には、家族に連絡を行い、同意の上通院を行い、通院後は家族に報告している。また、家族対応の場合にも、情報共有できるようにしている。	○	○	○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	既往歴、現在の状態など情報提供をしている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	病院との情報交換に努めている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	日々のケアやかかわりの中での気づき等看護職員に伝え、相談している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	オンコール体制でいつでも看護職に相談、連絡できるようになっている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	バイタルチェック、様子観察を行い、早期発見、早期治療に努めている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	一人ひとりの薬に対して用法等理解している。状態の変化など記録に残し、看護職員に報告し、状態に応じて家族に報告している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	2重に服薬チェックを行いながら誤薬のないよう支援している。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	状態の変化、日々の様子観察を行っている。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	出来ることを説明し、理解が得られるように努めている。状態に変化が見られたら、必要に応じて話し合いの機会を持ち意向を確認している。				事業所には、「看取り介護指針、重度化した場合における対応の指針」があり、入居時に、家族等に看取り介護等の実施する際に、対応できることなどを説明している。終末期には、家族や主治医などの関係者を交えて話し合い、方針を共有している。また、看取り支援時には、フェイスシールドを着用し、10分以内での家族との居室での面会に対応をしている。さらに、看護師が作成した映像をユーチューブを活用して視聴してもらい、終末期における介助方法を職員に伝えるなど、質の高い支援が行えるよう努めている。多くの家族から、「利用者にとって住み慣れた事業所で最後まで看取り介護をしてほしい」などの希望が多くなっている。医療行為のほか、事業所で支援することができなくなった場合には、他の施設や病院に転院する利用者もいる。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	話し合いの機会を設けて意向を確認している。	◎		◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	日々の勤務の中で、職員の力量を把握している。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	方針について説明を行い、理解が得られるよう努めている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	かかりつけ医、看護職員、家族と話し合いながら支援できるよう取り組んでいる。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族と連絡を取り、お話を伺いながら思いを共有できるようにしている。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	勉強会を行い、それぞれの予防の対応について話し合い、シュミレーションを行っている。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	内部研修に参加してワーカー会で話し合っている。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	◎	保健所からの案内や新聞、関係医療機関からの情報、SNS等で情報収集し共有している。				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	日頃より、手洗い、うがい、アルコール消毒を徹底している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
II. 家族との支え合い										
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	本人と家族との関係を大切にしている。				以前は家族会を開催して、カレーやフルーツポンチなどを調理し、事業所内で利用者と一緒に食べてもらうなど、家族が事業所の活動に参加することができていたが、コロナ禍などの感染対策が続き、現在は家族の参加できる行事などの開催は自粛をしている。家族とのオンライン面会に対応するほか、玄関スペースでガラス越しの面会にも対応をしている。また、電話連絡や事業所便りを活用して、利用者の様子や事業所の出来事を家族と共有できるよう努めている。さらに、事業所便りを年3回発行し、事業所の活動のほか、職員の異動や新入職員の紹介などを掲載し、請求書と合わせて送付をしている。家族が来訪する機会が少ないこともあり、利用者家族等アンケート結果から、事業所の運営上の出来事や事柄、職員の入退職などについて、家族から十分な理解を得られていないことが窺えるため、事業所便りの発行頻度の増やして報告をしたり、感染状況が落ち着いた際には、家族会を再開して報告をしたり、利用者や交流できる機会を設けるなど、周知方法を職員間で検討していくことを期待したい。	
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	×	感染症対策による制限により交流等出ていない。	×		△		
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	面会時に日々の生活の様子をお伝えしたり、毎月計画書の実地状況、健康状態把握表を送付している。	◎		◎		
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるよう支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	本人の認知症による症状や行動について説明を行いより良い関係を築いていけるよう支援している。					
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	運営推進会議に参加して頂き、行事報告をしている。		×			△
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	○	リスクについて説明し、適切な対応が出来るように努めている。					
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	いつでも気軽に話しやすい雰囲気作りや対応に努めている。					◎
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	家族に必要な説明を行い、新しい入居先にも情報提供を行いスムーズに退居ができるよう支援している。					
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるよう支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	説明させて頂き、同意を得るようにしている。					
III. 地域との支え合い										
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域、事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	認知症カフェや介護予防教室などの開催や運営推進会議を通して理解を得られるよう努めている。		◎		以前は、ボランティアを受け入れたり、障がい者支援施設等の利用者と交流をしたりするなど、地域と交流することができていたが、現在は感染対策もあり、交流できる機会は減少をしている。職員は、近隣住民と挨拶や会話を交わす程度となっていたが、令和5年の秋祭りには、神輿に参訪してもらうことができ、利用者には喜ばれている。今後、管理者は、「今後感染状況を確認しながら、少しずつ地域のネットワークを広げていきたい」と考えている。	
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	ボランティアや近隣学園との交流、地域の秋祭りへの参加など地域の方々との関係を深められるよう努めている。			△		
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが「増えている」。	○	医療機関との連携、理美容の出張等支援を得ている。					
		d	地域の人々が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	感染症対策により制限が見られている。					
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるなど、日常的なおつきあいをしている。	○	日頃から挨拶をこころがけている。					
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	地域のボランティアや秋祭りの神輿や獅子舞など楽しみにされており、日々の生活の支援をして頂いている。					
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	消防署、理美容店に協力して頂いている。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人の参加がある。	○	毎回ご案内のお知らせを送付し、参加して頂けるように取り組んでいる。	×	/	△	コロナ禍が続き、令和5年5月まで、運営推進会議は書面開催となっていたが、コロナの5類移行に伴って制限を緩和し、感染対策を講じた上で30程度の集合形式の会議を開催できるようになっている。感染対策もあり、家族への会議の案内までは送付していない。会議録は、玄関スペースに置き、来訪者が閲覧できるようになっている。家族の参加が得られていないこともあり、利用者家族等アンケート結果から、運営推進会議を活かした取り組みについて、十分な理解が得られていないことが窺えるため、感染状況が落ち着いた際には、全ての家族に会議の開催案内や議事録を送付したり、家族会等を活用して、会議の目的や意義を伝えたり、家族が会議に参画して意見をもらうなど、周知方法を職員間で検討することを期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	○	自己評価、外部評価の内容や議事録を提出し、いつでも閲覧していただける様にしている。	/	◎	○	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	できる限り多くの方が参加できるよう日程調整を行っている。	/	/	◎	
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	日々共有、認識ができる様にし、実践できるように努めている。	/	/	/	/
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	契約時に伝えるようにしている。ユニットに掲示いつでも見れるようにしている。	○	×	/	
42	職員を育てる取り組み ※文書の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	年間の研修計画を立てて、職員の知識、介護技術の向上に努めている。	/	/	/	医師である代表者は、月1回程度事業所を訪問し、管理者から状況を聞くとともに、職員から出された意見を伝えることができる。また、年1回ストレスチェックを実施し、必要に応じて、カウンセリングなどの案内をしている。さらに、年間の研修計画を作成して、定期的に勉強会などを実施し、職員のスキルアップに努めている。加えて、有給休暇や希望休の取得を促すとともに、職員の出勤日数に応じて、法人独自のポイントを付与し、貯まったポイントを商品券などに交換できるシステムを導入し、福利厚生の実施に努めるなど、働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	職員のレベルに合わせて、技術や知識が向上できるよう、ワーカー会やその場でのアドバイスを進めようとしている。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	資格取得しやすい勤務体制や、資格手当や給料のベースアップなど職員が意欲を持って働けるよう努めている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	様々な団体や県、市主催の研修会等に出席するよう努めている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	職員の抱えている問題や不満を聞く機会を設けている。ストレスチェックの実施により環境づくりに努めている。	◎	○	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃されることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	◎	身体拘束等適正化委員会の設置や、指針の作成、不適切ケアチェックシートを活用し、定期的に確認を行っている。またワーカー会等で職員同士話し合いを行い理解を深めている。	/	/	◎	年2回虐待防止に関する勉強会を実施し、職員の理解促進に努めている。また、不適切な言動が見られた場合には、職員同士で注意し合うとともに、管理者から該当職員に確認を行い、個別に指導や注意喚起をしている。さらに、不適切ケアチェックシートを活用して、振り返りを行うほか、ワーカー会を活用して話し合い、職員の意識向上に努めている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返り話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	日々の申し送りやワーカー会などで、意見を交換したり、ケアについて振り返りを行っている。	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	年に1回職員のストレスチェック診断を行い、各自に結果を伝え把握している。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員は「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	研修に参加したり、身体拘束等適正化検討委員会を設置し、意識向上に努めている。不適切ケアチェックシートを活用し身体拘束に繋がらないようにしている。	/	/	/	/
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	定期的に勉強会を行い、学びを深めるとともに日々のケアに活かせるようにしている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を促している。	◎	家族からの拘束や施設の要望はないが、話し合って理解をして頂くように努めている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解し、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	○	成年後見人制度について、学ぶ機会を持ち、知識の習得に努めている。利用者の権利擁護について知識を深めるよう努めている。				
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	地域包括支援センターや専門機関に連絡を取ったことはないが、必要があれば連携体制を築いていきたい。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	事故や急変時のマニュアルがあり、緊急時には適切な対応ができるように確認している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	すべての職員が、定期的に訓練を行い慌てずに適切な対応ができるように努めている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	ヒヤリハットや事故が発生した時には、書式に記録し、申し送りやカンファレンスを行い検討するようにしている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	事故を未然に防げるよう、利用者一人ひとりの対応の仕方などを話し合うようにしている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	◎	施設では、苦情解決処理要領、苦情受付書を作成し、また口頭での苦情や希望をお聞きし、対処、改善を行うようにしている。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	苦情については速やかに対応を行い、苦情の内容を検討し、必要な場合は関係機関等への報告を行うようにしている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	◎	苦情の内容を検討し、速やかな対応を行っている。サービスの内容の改善や経過を伝え納得して頂くようにしている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつけている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	面会に来ていただいた時に、意見や要望をお聞きしたり、意見箱を設置し気軽に意見を伝えられる機会を作っている。	◎		○	日々の関わりの中で、担当職員を中心に、利用者から意見を聞いて把握し、可能な範囲で対応をしている。家族には、面会時や電話連絡時を活用して、意見を聞くようにしている。また、事業所の玄関に意見箱を設置し、家族等から意見を収集できるように工夫しているが、家族が来訪する機会が少ないこともあり、近年はほとんど意見が入らない状況が続いている。さらに、管理者は、平時から職員とのコミュニケーションを大切に考え、職員から意見を聞くことを心がけており、職員は、管理者に相談や意見を伝えやすいと感じている。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	◎	重要事項や相談を受けた時等に説明させて頂いている。				
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつけている。	○	可能な限り、現場に赴き職員の声を直接聴くようにしている。				
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	毎日の申し送りに参加し、利用者の様子を把握するとともに、職員の意見や要望を聞く機会を持っている。				
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	施設独自の自己評価を行い、振り返りを行っている。ユニットごとに目標を決め、ユニットの目標達成に向け努力をしている。				外部評価の自己評価は、ユニット毎に作成をしている。サービスの評価結果は、玄関スペースに置き、来訪者は自由に閲覧することができるほか、運営推進会議の中でも、参加メンバーに報告をしている。現在は、会議に家族の参加がないため、家族に評価結果を報告することはできていない。今後は、感染状況が落ち着いた際に、集合形式の会議に家族に参加案内のほか、議事録を送付したり、会議の参加メンバーに目標達成状況の取り組みのモニターを呼びかけて、意見をもらったりするなど、出された意見を反映しながら、サービスの質の向上に繋げることも期待される。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	評価結果に基づいて、ひとつ一つの課題を達成できるよう、業務に反映できるような計画を作成し取り組んでいる。				
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	外部評価の内容は、玄関にいつでも読めるように設置しており、運営推進会議において報告させて頂いている。	○	○	○	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	ワーカー会などで課題に挙げ検討するようにしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	年2回消防署の指導による避難訓練を実施し、職員の防災意識を高めるようにしている。	/	/	/	年2回、火災や昼夜などの想定した避難訓練を実施している。以前は、消防署の協力を得て、訓練を実施することもできていた。感染対策もあり、訓練には利用者の参加はできていないため、職員が利用者役を担い、避難を想定した模擬訓練も実施している。また、複合施設として、市行政から福祉避難所の指定を受け、水や食料などの備蓄品を用意するとともに、災害発生時の連携や応援体制を整えている。さらに、コロナ禍以前は、家族が運営推進会議に参加し、会議の中で、避難訓練の案内や結果報告を行うことができていたが、現在は家族等への報告はできておらず、利用者家族等・地域アンケート結果から、災害への備えの十分な理解が得られていないことが窺えるため、感染状況が落ち着いた際には、会議の参加メンバーや家族に避難訓練の参加を呼びかけたり、集合形式の運営推進会議の中で、災害対策を話し合ったり、地区の自主防災組織に呼びかけて、一緒に合同訓練を実施するなど、安心安全な取り組みへの理解が得られるように、周知方法を職員間で検討することを期待期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるように、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	消防署や警察署と防災訓練や不審者対応の訓練をして頂き、特に防災訓練では時間帯設定での訓練をして頂いている。	/	/	/	
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	月に1回は備品チェックを行っている。	/	/	/	
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	◎	運営推進会議や行事等において顔なじみの関係を築くようにしている。地域の福祉避難所となっており支援体制確保に努めている。	×	×	△	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	◎	近隣の障害者支援施設の避難訓練に協力させて頂いている。また、事業所連絡会でも防災について話し合っている。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	運営推進会議では、地域の人たちが集う場所として提供できる体制にあることを助言し、介護予防教室等の情報発信に努めている。	/	/	/	複合施設・事業所に相談が寄せられた場合には、快く対応をしている。また、研修や会議に参加する機会は減っているものの、市行政や地域包括支援センターなどの関係機関と平時から連携を図ることができている。コロナ禍以前は、複合施設として、「であい憩いカフェ」という認知症カフェを開催するとともに、地域住民等に対して、介護教室や相談支援などを実施することもできていた。現在は法人の方針で、感染対策もあり、ボランティアや養成校の学生の実習などの受け入れも行うことはできていない。今後は、感染緩和に伴い、少しずつ市行政や地域包括支援センターなどの催しやイベントに協力するとともに、認知症カフェが再開されることも期待される。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	運営推進会議のメンバーや電話での問い合わせ等相談支援をしている。	/	△	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	介護予防教室、認知症カフェなど開催し、地域の交流スペースとして活用して頂いている。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	ボランティア、研修実習生の受け入れ、初任者研修受講の窓口を行っている。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	運営推進会議には、市担当者、包括職員の参加を得ている。事業所連絡会では、交流や防災等課題の検討を行っている。	/	/	○	